



子どもたちよ

子どもたちよ

私がお前たちに遺してあげられるものは あまりにも少ない
兄弟喧嘩も起こらないほどの僅かな財産と
正直なだけがとりえの血筋
何枚かの写真
そして書棚に古びた本と 読書を苦痛に感じない習慣…
伝えるものはそれがすべてだ

地位や名誉が欲しければ自分で手にすればいい
愛もまた同じだ
それは私が遺してゆくものではない
自分で考えろ
自分で選べ
自分で生きろ
そのために必要なことは教えてきた

ただひとつ言っておこう
読書を怠るな

もちろん本からの知識がすべてだとは言わない
多くの人と出会い、経験を重ねることによって、人は真に成長する

時には書を忘れ酒盃をくみかわすのもいい
しかし読書は怠るな
想像の翼を持たない者はいつまでも夢に届かない
幸いお前はインクの染みのような活字の羅列から物語を想像する力を持っている
小さい頃、寝床で本を読んで聞かせると、お前は目を輝かせていた
その頃の興奮を忘れないでほしい

こどもたちよ

私がお前たちに遺してあげられるものは あまりにも少ない
兄弟喧嘩も起こらないほどの僅かな財産と

正直なだけがとりえの血筋

何枚かの写真

そして書棚に古びた本と 読書を苦痛に感じない習慣…

❖ 『子どもたちよ』について

少し長くなってしまいましたが、この詩（後半のリフレインの部分を作者の許可を得て割愛しています）が栗盛記念図書館多目的室に大きく掲示されています。作者は東京都在住の茨田晃夫氏。詩は一九八八年の読書推進キャンペーンに合わせて作詩され、出版業界の広告や書店の店頭ポスターとして飾られていたとのこと。大館市内にもまだ複数書店があった時代のことです。秋田市のK書店のホームページの最初には今もこの詩があります。同書店の封筒にも印刷されているとのこと、ここにも大きなドラマがあるのですが、今回は割愛させていただきます。

この詩の掲示にあたって茨田氏は、「あの詩は幸せ者です」「若いころに書いた詩が、自分にも元気を与えてくれています。」と語ってくれました。読んだ方から「この歳になっても身に染みる言葉ですね〜。この歳になったからこそかもしれない。」という感想をいただきました。

❖ 図書館長としての思い

「活字離れ」この言葉が言われて久しく、今はネットで読むという人もいます。ネットで、この詩の中にある「インクの染みのような活字の羅列から、物語を想像できる力」が身につくのでしょうか。

この詩との出会いから約一年。この詩にこめられた想いは作者の想いを超え、さまざまな人の想いに重なっていています。

家に書棚なんてないよ、という方もいらっしゃるかもしれません。

世の中にはたくさん本があります。そのすべてが市立図書館にあるわけではありませんが、読書の楽しさを味わえる本がたくさんあります。

図書館をあなたの書棚として活用してみてはいかがでしょうか。（保）